

BASE Vol.47

実践的基礎知識 マクロ経済編(2)
 < GDPの変化①人口増加②経済効率向上 >

2017/5/11

GDPの変化①人口増加②経済効率向上

GDPは1年間に一国内で生産されたモノ(最終財)とサービスの価値の合計であり、言い換えると儲けの合計です。国民1人当たりの稼ぎ(1人当たりGDP)が変わらなくても、その国の人口が2倍になれば、国全体のGDPは2倍に増えます。また、経済効率が向上し国民1人当たりの稼ぎが増えれば、国全体のGDPは増えます。

GDPの変化①人口増加

国民1人当たりの稼ぎが変わらなくても、その国の人口が2倍になれば、国全体のGDPは2倍に増えます。

前回に引き続きバナナ共和国を例に見てみます(図表1)。漁師のAさん、魚屋のBさん、定食屋のCさん、米屋のDさんが暮らすL村しかなかったバナナ共和国の人口が2倍になり、もう1つ村、M村が出来ました。漁師のWさん、魚屋のXさん、定食屋のYさん、米屋のZさんの4人の村です。この国は、交通の便が悪いため、もともとあったL村と新しくできたM村の2つの村は行き来が出来ません。その結果、効率が悪いことと同じような村が2つできてしまいました。漁師のAさんもWさんも魚を20匹釣って単価100円で売っています。魚屋のBさんとXさん、定食屋のCさんとYさん、米屋のDさんとZさんも別々の村で同じ経済活動を行っています。元々のバナナ共和国のGDPは15,000円、人口4人、1人当たりGDP3,750円でした。バナナ共和国の人口が2倍になり、全く同じ経済活動を行う村がもう1つ出来たことでGDPは2倍の30,000円になりました。その結果、この国は他の国から30,000円分のもので買えるくらい大きくなりました。しかし、1人1人の豊かさは以前と全く変わっていません。1人当たりGDPは30,000円÷8人=3,750円で各人が自由に好きな買い物出来るのは平均3,750円のままです。

このように、人口が増えれば、1人当たりの稼ぎや、各人の豊かさは変わらなくても、国全体のGDPは増えます。同じように、人口が減れば、1人当たりの稼ぎや、各人の豊かさは変わらなくても、国全体のGDPは減ることになります。

図表1: バナナ共和国の1年間の経済活動①

L村		M村	
Aさん 漁師 魚を釣って売っています	売上: 単価100円×個数20個=2,000円 原価: 単価0円×個数20個=0円 利益: 単価100円×個数20個=2,000円	Wさん 漁師 魚を釣って売っています	売上: 単価100円×個数20個=2,000円 原価: 単価0円×個数20個=0円 利益: 単価100円×個数20個=2,000円
Bさん 魚屋 魚を買って売っています	売上: 単価250円×個数20個=5,000円 原価: 単価100円×個数20個=2,000円 利益: 単価150円×個数20個=3,000円	Xさん 魚屋 魚を買って売っています	売上: 単価250円×個数20個=5,000円 原価: 単価100円×個数20個=2,000円 利益: 単価150円×個数20個=3,000円
Cさん 定食屋 魚を買って焼き魚定食を売っています	売上: 単価450円×個数20個=9,000円 原価: 単価250円×個数20個=5,000円 利益: 単価200円×個数20個=4,000円	Yさん 定食屋 魚を買って焼き魚定食を売っています	売上: 単価450円×個数20個=9,000円 原価: 単価250円×個数20個=5,000円 利益: 単価200円×個数20個=4,000円
Dさん 米屋 米を輸入して売っています	売上: 単価500円×個数15個=7,500円 原価: 単価100円×個数15個=1,500円 利益: 単価400円×個数15個=6,000円	Zさん 米屋 米を輸入して売っています	売上: 単価500円×個数15個=7,500円 原価: 単価100円×個数15個=1,500円 利益: 単価400円×個数15個=6,000円
Aさん 2,000円		Wさん 2,000円	
Bさん 3,000円		Xさん 3,000円	
Cさん 4,000円		Yさん 4,000円	
Dさん 6,000円		Zさん 6,000円	

GDP合計 (L村)15,000円+(M村)15,000円=30,000円

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

実践的基礎知識 マクロ経済編(2)

< GDPの変化①人口増加②経済効率向上 >

GDPの変化②経済効率向上

経済の効率が上がり、経済活動が活発になることで1人当たりのGDPが増えれば、人口が増えなくても国全体のGDPは増えます。

バナナ共和国ではインフラ整備が進み、2つの村を結ぶ道が出来ました。魚屋も米屋も1軒で済むようになり、魚屋と米屋の売り上げは2倍(単価は変わらず)になりました(図表2)。一方、たまにはパンと肉を食べたいという国民のニーズを捉えた新しい商売が生まれました。(M村の人は商売を変えました。)

経済の効率が上がり、経済活動が活発になったため、バナナ共和国のGDPは30,000円からさらに増え55,500円になりました。

また、経済効率が上がったことで人々はより多くの付加価値を生み出せるようになり、1人当たりGDPは55,500円÷8人=6,937.5円となり、各人が自由に好きな買い物が出来るのは平均6,937.5円と豊かになりました。

人口が増えなくても、1人当たりの稼ぎが増えれば、国全体のGDPは増えます。また、各人の豊かさが増し、各人が多くの富を手にし、より多くのものを買えるようになります。

図表2: バナナ共和国の1年間の経済活動②

L村		M村	
Aさん 漁師 魚を釣って売っています	売上: 単価100円×個数40個=4,000円 原価: 単価0円×個数40個=0円 利益: 単価100円×個数40個=4,000円	Wさん 牧場主 牛を育てて売っています	売上: 単価300円×個数20個=6,000円 原価: 単価0円×個数20個=0円 利益: 単価300円×個数20個=6,000円
Bさん 魚屋 魚を買って売っています	売上: 単価250円×個数40個=10,000円 原価: 単価100円×個数40個=4,000円 利益: 単価150円×個数40個=6,000円	Xさん 肉屋 牛肉を売っています	売上: 単価500円×個数20個=10,000円 原価: 単価300円×個数20個=6,000円 利益: 単価200円×個数20個=4,000円
Cさん 定食屋 魚を買って焼き魚定食を売っています	売上: 単価450円×個数40個=18,000円 原価: 単価250円×個数40個=10,000円 利益: 単価200円×個数40個=8,000円	Yさん ステーキ屋 肉を買ってステーキを売っています	売上: 単価900円×個数20個=18,000円 原価: 単価500円×個数20個=10,000円 利益: 単価400円×個数20個=8,000円
Dさん 米屋 米を輸入して売っています	売上: 単価500円×個数30個=15,000円 原価: 単価100円×個数30個=3,000円 利益: 単価400円×個数30個=12,000円	Zさん パン屋 小麦を輸入してパンを作って売っています	売上: 単価250円×個数50個=12,500円 原価: 単価100円×個数50個=5,000円 利益: 単価150円×個数50個=7,500円

L村		M村	
Aさん	4,000円	Wさん	6,000円
Bさん	6,000円	Xさん	4,000円
Cさん	8,000円	Yさん	8,000円
Dさん	12,000円	Zさん	7,500円

GDP合計 (L村)30,000円+(M村)25,500円=55,500円